

金融教育ってなに？
～ママ FP のひとりごと⑬～

ファイナンシャルプランナー 鈴木さや子

最近、ゲーム会社の「コンプガチャ」が話題になりました。「コンプガチャ」とは、カプセルのおもちゃの販売機のように、抽選方式でアイテムを購入して、決められた数種類のアイテムをそろえると、さらに希少なアイテムを入手することができるという仕組みのこと。携帯でクリックするだけで、簡単にアイテムを購入できるので、希少なアイテムを手に入れようとするために、数十万以上もかけた人も、大勢いたんだそうです。そしてその中には、大金をはたいて「コンプガチャ」にハマった小中学生の姿も、少なくありませんでした。

「この仕組みは射幸性があり違法」と国が断定し、販売禁止になりましたが、この手の「お金の罠」はそこら中に転がっているもの。子どもたちが「お金の罠」に引っかからないように、大人たちが何かできることはないでしょうか。

携帯でモノが簡単に買える便利な時代となった今、子どもたちにしてあげられる大切なことのひとつが「金融教育」です。

1. 金融教育ってなに？

■豊かで幸せに生きていくために必要な教育

金融教育とは一言で表すと「豊かで幸せな人生を送るために、お金・経済などに関する知識を高める」教育です。

そして、知識を高めると共に、世の中における自分の役割や、暮らしやすい社会などについても深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、自立して行動できる力を養う教育です。

今の大人たちは、こうした教育を受ける機会がありませんでした。その結果、「年金生活を送る両親に養ってもらい、30代の大人」「借金を繰り返し、自己破産に陥る大人」といった例が後を絶たないのです。また、国民の多くが、教育費や、将来の老後生活費などに不安を持ちながらも、どう対策をすればわからなくて悩んでいるという現状も、金融教育を受けていないことが根本の原因であると思います。

■「お金を殖やす」ことだけを教えるわけではない

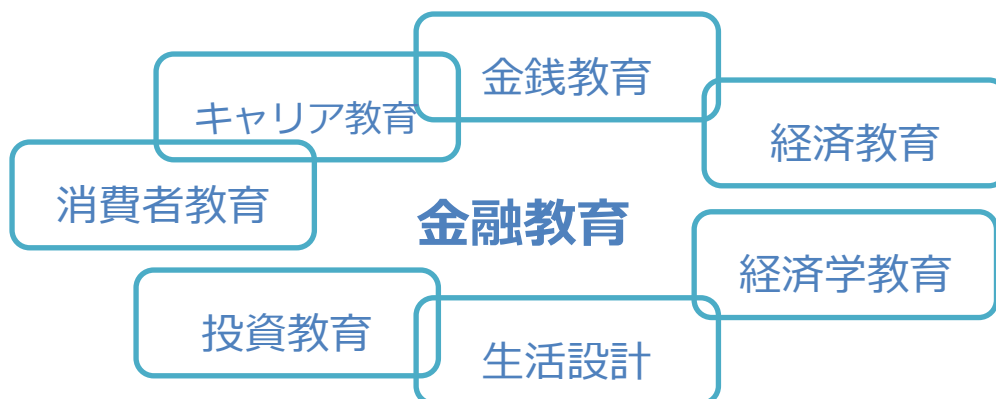
「金融教育」と言うと、「子どもに投資のことを教えるなんて」と不快感を表す大人がいます。たしかに「金融教育」の一つに「お金を殖やす知識」＝「投資教育」も含まれてはいます。が、「お金を殖やす」ことだけを教えるのが「金融教育」ではありません。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

特に、子どもに最初に伝えないといけないのは「お金は労働の対価」「お金には限界がある」と言った、お金の基本を教える「金銭教育」です。

このように「金融教育」には、「投資教育」や「金銭教育」を含む、さまざまな教育が含まれているんですね。代表的な教育の例として以下のものがあげられます。



- 金銭教育：モノやお金を大切にする。お金の価値と重みをしり、正しい金銭感覚を養う
- 経済教育：世の中の経済・金融の仕組み、役割、機能を理解する
- 経済学教育：経済学的な考え方を学び、お金との関わり方、社会問題を考える視点を養う
- 生活設計：家計の収支の把握および家計管理、将来の生活設計ができる力を養う
- 投資教育：金融商品の内容やリスクについて学び、資産運用ができる力を養う
- 消費者教育：消費者の権利と責任を学び、お金のトラブルを未然に防ぐ、または対応できる力を養う
- キャリア教育：働く体験をするなどして、就労の意味を知り、将来どんな職業に就きたいかを考えさせる教育

<『金融教育の現状と課題』農林金融 2006 (木村俊文著) より筆者作成>

これらすべてを総称したものが「金融教育」なのです。どれ一つとっても、大切な項目ばかりですよ。子どもたちには、その時々理解出来る必要なことを、少しずつ教えることによって、包括的に理解できるようにしたいものです。

2. 親自身の行動をまずはチェックしよう

それでは金融教育は、何歳ごろからスタートすればよいのでしょうか。

「子どもは親の背中を見て育つ」と言うように、子どもが見ている親の行動も金融教育に直結すると言えます。たとえば、お金を大切に扱わなかったり、欲しいモノはすぐを買ったり、ゲームでアイテムを携帯で購入したりするなどといった親の行動を見て、子どもは「お金」のことを理解していくのです。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

ここで、簡単な金融教育チェックをしましょう。次のようなことは思い当たりませんか？
思い当たることがある場合は、できることを少しずつ直していけると良いですね。

- ・紙幣は乱雑に折る
- ・小銭を机に放りっぱなしにする
- ・お財布の中はレシートとカードと紙幣でぐちゃぐちゃ
- ・欲しいものがあったら、すぐ買ってあげる（または買う）
- ・気分を買ってあげたり買ってあげなかったりする
- ・子供の前でも常にクレジットカード決済
- ・ゲームで欲しいアイテムがあったら携帯などネットで購入
- ・買物はネット通販が多い
- ・お金のことで夫婦喧嘩が多い
- ・子供に仕事の話をしていない

子どもに「お金」のことを言葉で教えるのは、3歳以上にならないと無理ですが、親自身の生活、行動を見直すのは、早いに越したことはありません。特にクレジットカードや電子マネーといった「見えないお金」でばかり買い物をしている方は要注意です。「お金」の実体を知らないまま育つと、「お金」と上手に付き合うことができない子どもになる可能性が高いと言えるでしょう。

今回は、「なぜ金融教育が必要なのか」ということを、世の中の社会環境・生活環境の変化から考えてみたいと思います。

今年の秋、都内近郊の小学校数か所で、保護者向けに「金融教育」についてお話させていただくことになりました。FPとして、2人の娘を持つ一人の母親として、同じ保護者の皆さまに熱い思いを伝えてきたいと思っています。特に「おこづかい制度」については、世の母親たちは興味津々！2月号のコラムでも書きましたが、今後も「おこづかい制度」について、さらに深くお伝えしていきますね。

《今月のお気に入り曲》

歌劇『リエンチ』序曲
／ワーグナー作曲
14世紀に実在した政治家リエ
ンツォをモデルに作られた、壮
大かつ華麗で豪華なオペラ作
品の序曲です。作曲家ワーグナ
ーの出世作品だそうです。